千葉ハッキョ創立７５周年記念

大抽選会結果発表

当選結果動画はこちら

千葉ハッキョ創立７５周年記念大抽選会の結果をお知らせします。チケットをお持ちの方はご確認下さい。

賞品協賛：アボジ会、オモニ会、ハナ信用組合千葉支店、金剛保険千葉支社、千葉県商工会

７５周年記念オリジナルタオル＆Ｔシャツ

１４６２　１６４５　１７８１　１８９５　２２１３
２３３８　２４１５　２４３１　２５２６　２５６７

洗剤セット

１０２８　１０９３　１１０５　１２５６　１２９２
１５１１　２０３６　２２７６　２４３４　２６６９

入浴セット

１３７１　２７９９

お米券 3000 円分

１２３８　１７１４　２５４７

QUOカード 5000 円分

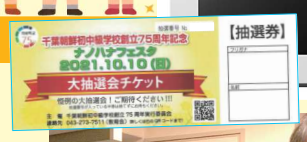
１７０９

パナソニック製電子レンジ

２３８０

ダイソン・コードレス掃除機

２０２６



当選した方に実行委員長から賞品贈呈

当選された抽選券をお持ちの方は、学校教育会、支部へ連絡して下さい。

※賞品受け渡し期限は2022年6月末となります。

心から感謝申し上げます！

ナノハナ貯金箱

総額 ９４万０６６２円

（協力していただいた貯金箱の数131個）

当選結果動画はこちら

新型コロナが蔓延する中、多くの同胞や日本の方たちが「ナノハナ貯金箱」にご協力していただきました。千葉朝鮮学校のために多くの方たちが自分自身の生活すら困難な中で、ご協力していただいた行動や想いに感謝以外、言葉が見つかりません。かつて誰もが貧しかった時代、「毎日 5 円貯金運動」を行い、子どもたちのために浪花町に新しい校舎を建設しました。同胞たちや日本の方たちの暖かい想い溢れる伝統が今も色あせていないことが証明されました。貯金箱で集まった支援金は、ICT 機材購入費等として活用させていただきます。

編集後記

千葉学校創立75周年事業実行委員会が解散した。今回の記念事業の大きな特徴は、なんだろうか？ ひとつは千葉民族教育が抱える問題を直視し、テーマにしたことだ。学生数の減少、財政の安定化という問題に対して、何をすべきなのかを考え、実行した。もう、ひとつは40代以下の若手を中心に実行委員会を構成したことだ。若手だからこそ、出来なかったことも、失敗も多かったかもしれない。しかし、重要なことは過去の経験に捕らわれず、新しいチャレンジを試みたことにある。成果や問題点も含め、今までにない可能性を見た。そして、75周年実行委員会の各事業を継続して実行していく。そういう意味では、75周年事業は千葉民族教育が抱える問題を解決するための「飛躍台」になったのかもしれない。千葉朝鮮学校では、日々、子どもたちが一生懸命に学び、先生たちも奮闘している。解決すべき問題は、山ほどある。どうしても現状維持のための活動になってしまう。しかし、75周年事業を通じて、これからは前に進むための活動へと切り替わるだろう。時代は大きく変化している。今の子どもたちが大人になる頃には、今の常識は通用しない。だからこそ、常に前に進む必要がある。学生や先生、教育会理事だけでなく、千葉同胞たち、支持してくれる日本の皆様と一致団結して、80周年、90周年、100周年に向け前進していきましょう！

千葉朝鮮初中級学校物語（9）

史上最大の困難の中で、頭角を現した新世代

学校創立６０周年記念イベント

21世紀の朝鮮学校の目的は、日本で生まれ育つ同胞子女に朝鮮人としての民族自主意識と民族的素養、正しい歴史認識と現代的な科学知識を身に付けさせ、真の人間性と健康な肉体を育くむことにある。これは朝鮮総連ホームページに記載されている現在の民族教育の目的である。

２０００年代に入り、民族教育を取り巻く環境は更に厳しくなる。朝鮮学校への差別を日本当局が主導・世論化することで、補助金をはじめ同胞たちが勝ち取ってきた権利までも奪われる。多くの同胞たちも困惑する中、千葉朝鮮学校が選択した道は、どのような困難な道であっても、あきらめず「子どもたちの主体性と民族性を育むこと」であった。２００６年、学校創立60周年を機に「校歌」の歌詞を変えている。愛国一世、二世たちが建ててくれた千葉朝鮮学校の教室にはウリマル（朝鮮語）が響き、子どもたちの心に民族の香りが、手と手を取り合い夢と希望を花開く…千葉朝鮮学校では、ウリマル教育を強化し、その前学年度には「ウリマル模範学校称号」を受賞している。ウリマル教育を単純な語学（スキル）教育としてではなく、朝鮮人としての民族自主意識を育成するためのもっとも重要な教育として位置付け、実践した結果である。

学校創立60周年を迎え、新しい全盛期を切り開く鍵は、千葉同胞たちの関心と支援の輪を広げることであった。そのために当時、実行委員会は、教育会、アボジ会、オモニ会、女性同盟、青商会、朝青の若い世代の同胞22名で構成し、総連本部では「自慢、感謝、団結！

学校補修工事をするアボジたち

１０００戸同胞訪問５ヶ月運動」を、全同胞を巻き込み展開している。運動期間中、直接的な訪問を基本としながらも、ハガキの送付、Eメールなどの方法で創立60周年活動ニュースなどを千葉県各地の１０００戸同胞に知らせ、同時に一口千円運動も展開している。学校創立イベントには千名を越える同胞たちや日本の方たちが集まり、大規模な学校補修事業を行っている。記念事業では「影の功労者」として若い世代が活躍した。行事の準備から片付けはあたりまえ。学校応援コーナーや一口千円募金活動、応援タオル販売、ピビンバレンジャー撮影会など学校支援活動の自他共に認める「主役」として頭角を現す。若い世代を中心に準備した創立60周年記念チャリティーゴルフでは、過去最大の３２０名が参加、３００万円を寄付している。創立60周年が愛国一世、二世たちの想いを繋ぐ「世代交代」として大きな意義があったのかもしれない。当時、南利道実行委員長は、60周年事業を振り返り、「千葉同胞運動のさらなる飛躍のためのもの」と語っている。

※　※　※

学校創立75周年を向かえ、千葉民族教育の歴史を整理してきた。学校を創設し、守り抜いた愛国一世、二世たちの壮絶な戦い、数度の新校舎建設、途切れることのない苦難の中で民族教育を固守し、発展させた活動など、そこには先生たちや子どもたち、学父母や卒業生たち、同胞たちや日本の方たち、共和国の深い恩恵があった。千葉民族教育の歴史は、今もウリハッキョで学ぶ子どもたちの未来を切り開く財産として、後世に残していきた。